我が国のサンゴ礁生態系は劣化が深刻な状況にあります。保全の取組をこれまで以上に加速させるためには、さまざまな活動を連携させていくことが重要です。

サンゴ礁生態系保全行動計画は、サンゴ礁生態系の保全の基本方針を示すと共に、多様な主体の参加のもと、今後5年を目処に取り組むべき具体的な行動を示すものとして、平成22年4月に策定されました。

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

環境省

日本のサンゴ礁生態系と保全行動計画

日本のサンゴ礁生態系

日本は、サンゴとサンゴ礁の分布の北限にあたりますが、暖流の黒潮が南から流れてくるため、世界的に見ても多くのサンゴが分布しています。サンゴの種類は琉球列島（沖縄県と鹿児島県奄美地方）で最も多く、九州、四国、本州に沿って北へ行くほど減少していきます。琉球列島ではおよそ415種、それより北の海域では約200種と見積もられています。

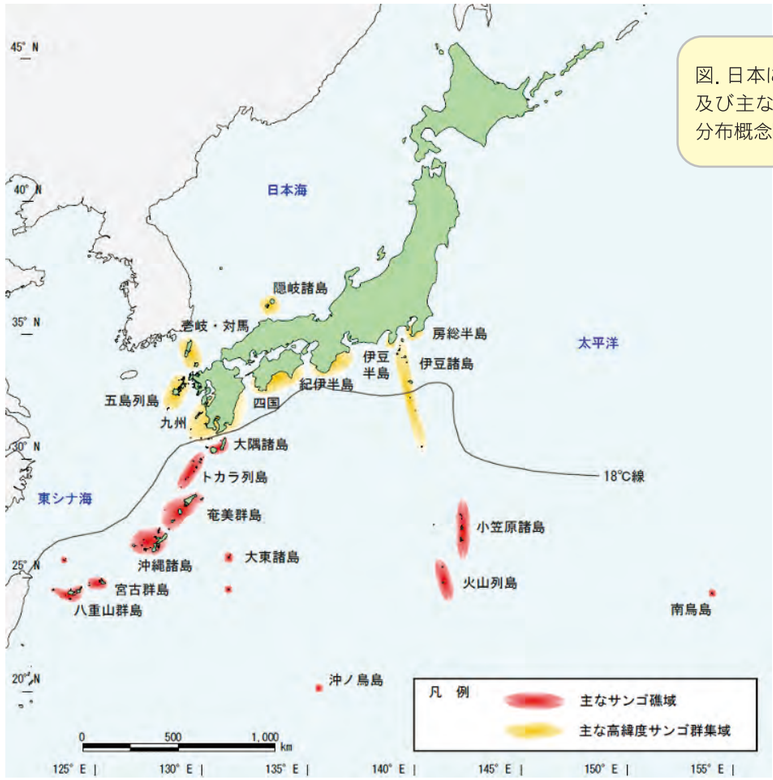

図. 日本における主なサンゴ礁域及び主な高緯度サンゴ群集域の分布概念図

図中の線は、冬季の月間平均水温の最低値が18℃であることを示している（環境省・日本サンゴ礁学会編「日本のサンゴ礁」環境省発行（2004年）より作成）

サンゴ礁生態系の価値

サンゴ礁生態系には、さまざまな種類のサンゴをはじめ、魚や貝などの多くの生物が生息しており、生物多様性の確保の観点から重要です。

また、私たち人間にとっても、漁業資源や観光資源といった恵みをもたらし、サンゴ礁地形は、外洋から打ち寄せる波からの自然の防波堤になっています。そのような海域に暮らす人々の生活は、古くからサンゴ礁生態系との深いつながりを持ち、食や民俗など独自の文化も育んできました。

このようなサンゴ礁生態系の機能や価値（生態系サービス）を定量的に評価する試みとして、日本のサンゴ礁域を対象に経済的価値を試算したところ、少なくとも年間、①観光・レクリエーション 2,399億円、②漁業（商業用海産物）107億円、③海岸防護機能 75.2億～839億円と推定されました。

日本のサンゴ礁生態系の現状

南西諸島・小笠原諸島をはじめとするサンゴ礁域では、陸域からの土壌や汚濁水などの流入、漁業や観光による過剰利用、沿岸域の開発、オニヒトデなどの大量発生、海水温上昇を主因とする白化現象、ホワイトシンドロームなどの病気などによって劣化が深刻なレベルに達しています。

例えば、日本最大規模のサンゴ礁である石西礁湖では、国立公園に指定された1970年代に比べて被度50%以上の高被度サンゴ分布域が大幅に減少しています。また、サンゴ礁生態系の重要な構成要素である水産資源も、サンゴ礁の荒廃や乱獲などにより急速に失われており、サンゴ礁魚類の捕獲量はピーク時と比べて1／3から1／5に減少しています。

「サンゴ礁生態系保全行動計画」の概要

～豊かな地域社会を実現する健全な自然環境の継承を目指して～

既に述べたように、我が国のサンゴ礁生態系は劣化が深刻な状況にあります。保全の取組をこれまで以上に加速させるためには、さまざまな活動を連携させていくことが重要です。

サンゴ礁生態系保全行動計画は、サンゴ礁生態系の保全の基本方針を示すと共に、多様な主体の参加のもと、今後5年を目処に取り組むべき具体的な行動を示すものとして、平成22年4月に策定されました。

目標

サンゴ礁生態系の保全（再生を含む）及び持続可能な利用を促進し、地域社会の持続可能な発展を図るため、以下の取組を推進します。

①国内外の連携体制や情報基盤を整備すること

②適正な利用と管理を推進し、良好なサンゴ礁生態系の維持が地域の発展につながる仕組みづくり

③海洋保護区の設定を含むサンゴ礁生態系の保全の取組を推進すること

対象とする生態系

サンゴ群集が分布する地域（サンゴ礁域および高緯度サンゴ群集域）。

サンゴ群集の他、関連する藻場、干潟、マングローブ林なども含む。

関係する主体

行動計画は、環境省が、関係省庁、関係地方自治体、学会などの協力を得て作成したものです。各主体はそれぞれの立場から行動計画を推進し、以下のような関係するさまざまな人々の理解と関心を促し、連携した行動の促進を図ります。

ー地域の農林水産従事者、観光業者や民間企業などの事業者、地域の協議会や業界団体などの関係団体、学校、公民館などの地域コミュニティー、研究者、学会、NGO、メディアや旅行者など

これらの主体は、自らの暮らしが密接にサンゴ礁生態系に関わることを認識して配慮した行動をすることや、サンゴ礁生態系を知る活動や保全活動への参加が期待されます。

基本方針

以下の基本方針のもとに、サンゴ礁生態系の保全と持続可能な利用を目的とした取組を推進します。

(1) サンゴ礁生態系保全調和型社会の形成

サンゴ礁生態系を保全し、持続的にサンゴ礁生態系の恵みを得て行くには、その恵みを活用した形での地域及び社会の発展が図られる社会経済的な仕組みづくりが重要です。

(2) 連携と協働

効果的かつ効率的な取組のためには、省庁間の連携・協働の他、地域の中での連携・協働、地域間での連携・協働の促進が重要となります。また、サンゴ礁生態系は気候変動に脆弱であり、国際的な連携（特にアジア・オセアニア地域）の推進も重要です。

(3) 科学的認識と予防的・順応的態度

サンゴ礁生態系の保全と持続可能な利用は、科学的な理解と認識を持って行われることが必要です。また、生物や生態系は絶えず変化し続けるため、有用な情報をもとに早めに対策を講じる予防的な態度と、生態系の変化を把握して、その変化に応じた管理や利用方法の柔軟な見直しを行う順応的な態度が大切です。

具体的な行動計画

(1) サンゴ礁生態系保全の基礎となる取組

連携の促進	サンゴ礁の保全の取組を行っている地域内の各主体や、地域同士のネットワークを形成し、取組や課題についての情報の共有を図り連携を促進する。
国際的取組	サンゴ礁の海洋保護区のネットワーク形成や効果的な保全管理、気候変動による影響への対策の推進に向け、東アジアを中心とした地域において、各種基盤の整備等国際協力を推進する。
普及啓発・人材育成	サンゴ礁生態系の重要性の認識を高め、それぞれの立場でサンゴ礁生態系に配慮した主体的な行動を促すため、環境教育・環境学習や普及啓発、エコツーリズムなどの活動を推進する。これらを実施するための各種人材やインタープリターを育成する。
情報の収集・発信とその体制の整備	サンゴ礁生態系の現状と移り変わりを把握するため、調査・モニタリングを継続すると共に情報収集を行い、それらの調査結果の分析により得られた情報を発信する。

(2) 持続可能なサンゴ礁生態系の利用

生物資源の適正な管理と利用	サンゴ礁生態系を保全し、水産資源等を持続的に利用するため、生態系の基盤としての価値や水産業などへの国民の理解を深め、適正な資源管理と保全活動の促進を図る。
適正な観光利用	地域の資源を保全しながら持続的に活用して地域振興と環境教育の推進を図るため、様々な主体の参画のもと観光利用のルールや地域資源の管理の仕組みづくりを広める。

(3) サンゴ礁生態系の保全

重要地域の設定と管理	重要な地域については、適切な保護区の設定や再生、管理を行い、保全を推進するとともに、保護区の設定にあたってはサンゴ群集間のつながりを考慮した効果的な保全を検討する。
陸域とのつながりを考えた統合的な管理	サンゴ礁生態系の危機要因のひとつである、陸域からの土砂や汚染物質の発生源対策を行い、海域と陸域のつながりを意識した保全活動の連携を推進する。
個別の課題に対する対策の確立	オニヒトデ等の食害生物の除去や活動支援、サンゴ増殖の実施を行うと共に、それぞれの取組の情報共有と効率的な連携を進める。